(3) 3組の実践

① 3組の実態

3組の子どもたちの障害は、水頭症・ダウン症・脳腫瘍・自閉的傾向であり、重積するてんかん発作のある子どももいる。また、そこから起こる二次的な障害も様々で、場面によってはしゃべれない，自信がなくおどおどしている，認知面で積み残した課題が多くある，注意が散漫になりやすい，固執しやすい等の問題があり、それぞれの児童に個別の配慮が必要である。

しかし、小学部の高学年でもあり、4～5年の学校生活を経験してきており、比較的落ち着いて机上学習に取り組むことができるようになってきている。また、必要な場面では、集団行動を意識できる子が大半であり、少しずつかかわり合って生活する姿も見られる。楽しみについては、楽しむ対象が限られており、その遊びからなかなか脱却できないことが多く、教師が意図して対象を拡げて、できる状況を作っていくことが必要である。

また、興味や関心を持っていることがらに対しても、そのやり方が分からず、できないことも多い。次の楽しみを身につけていくための基本的な学力や認知の力の必要を感じる。そのための学習も、楽しんでできるもので、自分で学習を必要性を感じなが学べるものであることが大切だと考えている。

② 指導の方針

- 乗り越えられる抵抗を少しずつ与える。教師は、子どもたちと一緒にやり方を考え、ともに乗り越えた喜びを共有する。
- できるだけ子どもたちの経験に基づいた意見や思いを大切にして取り上げていく。そのためには、長いスパンで単元を取り扱い、ゆっくりしたペースで学習を進めたい。

③ 単元の組み立て

期 間	4月～5月上旬	5月中旬～6月上旬	6月中旬～7月上旬
単 元	高学年になって	なかよし宿泊	たなばた発表会
単元の目標・意図	・新しいクラスや友だちに慣れ、少しは見通しを持って学校生活に取り組む。	・友だちと一緒に宿泊し、より親しくなる。 ・新しい経験をする。 ・自分のことは自分でする。	・「スイミー」の劇づくりをして、みんなで一つのものを作り上げる喜びを味わわせる。 ・発表会の運営に参加する。
内 容	・学校の生活を知る。 生活の流れ 学校探険 4月の計画 ・クラスの仕事を知り、教師と一緒にする。	・基本的生活習慣 布団敷き・食事の準備 ・校外学習 外食・買い物 公共の交通機関や図書館の利用	・スイミーの劇の台詞を考えたり、劇の練習をしたりする。 ・劇に必要な道具を作る。 ・司会をしたり終わりのことばを言ったりする。 ・プログラム作りをする。
様 子	・学校や学級の生活や友だちに徐々に慣れていき、遊びや学習の中で、自分のしたいことが言えるようになってきた。	・友だちと一緒に過ごすことによって、親しさが増していった。 ・基礎的な学力の必要性を感じた。	・長い間、繰り返し練習したことで自信を持って発表でき、満足感を持った。 ・人前ではしゃべれないというB男の問題点がクローズアップされた。

〈7月中旬以降は省略〉

④　単元「修学旅行」実践例

この単元は、３組の子どもたちにとって大切にしたい単元である。見通しを持って、主体的に取り組み、学習や当日の旅行に臨んだ単元の事例として、単元の概観を述べたい。

単元設定の理由

３組の児童は、これまでの学校生活で何回かの宿泊学習を経てきたが、家族以外の人と旅行に出て泊まることは、初めての経験である。この修学旅行は、高学年になった３組の児童にとって、小学部の集大成として位置づけられた行事であり、子どもたちは不安を持ちながらも楽しみにしている行事でもある。子どもたちは、旅行を計画する初めの段階では、「修学旅行にいく」ことの楽しみは交通機関を利用した短期間の移動だと思っている。しかし、行き先・日程・旅行先で見られるものや、その意味を知ることによって、その楽しみの意味が変化していき、行く目的がふくらんでいく。さらに、学習したことが実際の旅行先で目の前で展開され、それが新しい経験として積み上がっていく。この小学部の修学旅行の楽しかった経験が、これからの中学部や高等部さらには将来の旅行をさらに楽しいものにしていくと考えられる。

短期間ではあるが親元を離れて生活することによって、自分のことは自分でするという意識を持たせることもできると考えた。また、同じクラスの友だちと一緒に旅行することによって、さらに仲間意識を深めたり社会でのごく初歩的なルールを知り、身につけていくことができる。

単元目標

a　修学旅行を楽しみにしながら、学習や事前の準備をする。

b　荷物の準備や入浴・衣服の着脱など、自分のことは自分でする。

c　公共のトイレを利用したり、動物園や水族館の見学をしたりする。

d　お世話になった人に、挨拶したり礼状を出したりする。

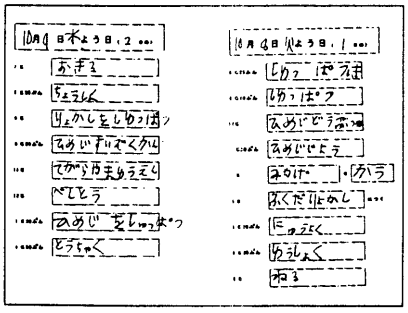
e　楽しかったことを発表し、思い出の作品として残す。

題材　しおりを作ろう（７時間扱い）

題材選定の意図と方法

修学旅行への見通しを持たせるために、しおりづくりに取り組んでいこうと考えた。しおりには、日程表として行き先と行く順序・行く時間を記入するようにした。また、持ち物や水族館や動物園で見たものがチェックできるようなチェック表も綴じ込めるようにしていった。

しおりの中の日程表



本題材における反省と課題

黒板に見本の大きな日程表をはり、それを参考にしながらしおりを作っていったが、個人差が大きいため、一人ひとりに場に応じた支援をしていくことが難しかった。しかし、出来上がった喜びは大きく、この活動によっても修学旅行に対する見通しが持てた。

⑤　課題

・意欲的に取り組め、かつ将来を見通した題材の選定と目標の設定

・最近接領域の題材の設定　・個や場に応じた支援

（倉）